

学生支援の現場から

◆会津大学
活気溢れる★修学支援室

修学支援専門員（事業総括） 根本 雅昭
http://www.u-aizu.ac.jp/official/offis/

「こんにちはー！どうしても分からないところがあった。」「どれ？あー、この問題は、これをこうすると…」「できましたー！ありがとうございます★」これは、私が所属している修学支援室の日常です。修学支援室は、留学生や退学者を減らし、本学唯一の学部であるコンピュータ理工学部の入学定員二四〇名に相当する数の卒業生を輩出するため、学生が講義や演習の内容を気軽に質問できる場として、二〇〇七年一二月に誕生しまし



修学支援室（指導中のテーブル）

た。修学支援室では、ヒントや考え方を様々な視点から指導し、将来何に役立つのかなどを交えながら、三名の常勤職員と大学院生のティーチング・アシスタントが、保健室や学生相談室などと連携しながら学生の支援を行っています。講義がある期間は、月に延べ五〇〇名程度の学生が訪れており、気軽に立ち寄れるよう、支援室前の廊下には洒落たカフェスタイルの看板、室内ではBGM、さらにお茶などの飲み物も提供し、入り易い雰囲気作りをしています。学生へのアンケートでは、「もし支援室がなかったら今頃落ちこぼれになっていたと思います。本当に支援室があつてよかつたと思つています。」「支援室はとても入りやすく、利用しやすいところも、私が支援室をいつも利用している理由の一つです。」といっ



修学支援室（全景）

た感想が寄せられています。私自身、本学を卒業し、本学に学生・職員として合計約一〇年おりますが、この間、設備・環境と共に学生への支援体制も年々充実し、私の頃にも支援室があったら…と思っています。

また、日常的な修学支援の他にも様々な支援事業を行っていますので、その中から三つの事業を紹介します。まず一つ目に、外部のスポーツインストラクターを招いて、毎週二時間程度、本学のトレーニングルームにて運動プログラムを行なっています。参加学生に対して個別の運動メニューを作成し、学生は適切なアドバイスを受けながら、肥満解消など、それぞれの目標に向かって運動に励んでいます。ある学生は、「このプログラムのおかげで、体脂肪率は5%も減少し、生活リズムも正常に取り戻され、普段の大学生活にもよい影響をもたらしています。」などの感想を寄せており、成果が表れているようです。二つ目に、本学は一人暮らしの学生が多いため、不規則になりがちな生活を食育の面から支援する、栄養指導・クッキング教室を行っています。三つ目に、コミュニケーションの機会が減少している学生に対して、円滑な人間関係を形成するためのコミュニケーションスキルトレーニングや、教職員を対象としたメンタルヘルス講習会などを実施しています。



運動プログラム



クッキング教室

本学は、二四時間利用可能なUNIXワークステーション、木造の体育館や室内温水プール、教員の半数近い多くの外国人教員など、数えきれないほどの素晴らしい特長を生かした支援を実施しています。今後も一人ひとりの学生が成長を実感できるよう、学生の立場に立った修学支援をより充実していきます。近くにお越しの際は、豊かな自然と歴史ある城下町会津若松市や本学にぜひお立ち寄りください。